

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2690600040 | | |
| 法人名 | 医療法人 社団 都会 | | |
| 事業所名 | グループホーム一乗寺ほっこり庵 | | |
| 所在地 | 京都市左京区一乗寺宮ノ東町37 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年9月15日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年12月28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2690600040&SCD=320 |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル |
| 訪問調査日 | 平成22年10月1日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者主体に物事を考え、可能な限り入居者の希望や意見を取り入れ、臨機応変に対応している。また、残存能力を活かした役割作りやレクリエーションを日々行っている。その結果、入居時に歩行不可能だった方が歩けるようになったり、要介護度の改善が見られた方も数名いる。ほっこりできるような雰囲気作りにも力を入れており、温かみや季節を感じられるような内装や装飾を入居者の力を活かしながら行っている。また、地域に根ざしたグループホームになるように、地域の方を招いたイベントの実施や地域の行事への参加を積極的に行っている。認知症の症状が重度になってもその人自身に寄り添い、信頼関係を築いていく中で、職員と一緒にその人らしく生活できるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは木と和を基調に落ち着いた雰囲気があり、対面式キッチンを設け利用者とのコミュニケーション作りに役立っています。利用者は洗濯物をたたんだり、皆で歌をうたったり、自室でテレビを見たりと自由で思いのままに過ごすことができます。家族との関係も良好で運営推進会議に多くの参加があり、意見を運営に反映させたり、来訪時に家族が台所に立ち自慢の手作りおやつを提供する等家族もホームの一員として溶け込んでいます。職員は利用者がしたいことをしたい時に出来るよう職員の配置に余裕を持たせ、買い物や外食等利用者の希望に沿って個別外出を心がけています。職員間のチームワークも良く、些細な事も全員で話し合い情報を共有し、個人の目標を立て研修や勉強会に参加しスキルアップを図っています。ほっこりとした中にも活気が有り、笑顔が絶えないホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域とのつながりを大切に考えており、理念の中にも取り入れている。毎年事業計画を職員全員で立てており、その中にも地域の中で暮らせるように具体策を挙げている。 | 法人の理念をもとにミーティングで話し合い、地域と共に過ごしていくことを踏まえ、誰にでもわかりやすい言葉としてホームの理念を作り上げている。理念は玄関やスタッフルームに掲示され、年間目標を立て半年毎に全職員で振り返り方向性を確認し合っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 日頃のあいさつはもちろん、地域のお祭り・地蔵盆・運動会の参加やお手伝いを行っている。また、一乗寺ほっこり庵で地域の方も参加できるイベントも行っている。 | 日頃から買い物や散歩の際に、近隣の方と気軽に挨拶を交わしている。町会長より情報を得て、地域の行事に参加したり、ホームの夏祭りにもピラ配りや張り紙をして地域の方に参加してもらっている。小学校の行事には招待を受け、見学している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域包括支援センター主催の地域向けの認知症あんしんサポーター講座の中でグループホームの取り組みなどを話させてもらっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 二ヶ月に一度開催し、一乗寺ほっこり庵の活動を報告している。その中で意見を頂く時間を設け、その意見を反映できるように努めている。 | 利用者、家族、町会長、地域包括支援センター職員、職員等が参加して2カ月に1度開催されている。毎回家族の参加が多くあり、ホームからの報告以外にも、成年後見制度について説明やホームで困っている事を相談するなど、有意義な会議となっている。議事録は参加者に配布している。 | 話し合いの内容や決定事項を他の家族にも知ってもらうため、議事録の内容について、全家族に配布してもいい部分については、全家族に配布することを検討されてはいかがでしょうか |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域運営推進会議の中で事業所の実情、取組を報告している。また、講習会などでの講師など事業所として協力できることがあれば、どんどん言って下さいと伝えている。 | 管理者は運営推進会議の議事録を市役所に持参したり、申請時等に区担当者を訪問し、話をする機会を持っている。また地域包括支援センターの依頼を受け、認知症の勉強会の講師を務め協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての勉強会を必要に応じ行っている。施錠に関しては、危険な場所に限り行っている現状だが、あくまでも危険回避の理由なので外出を希望されている時はすぐに一緒に外出している。 | ホーム入り口が2階にあり、危険防止のため家族や職員と話し合って時間を決め施錠している。配置の余裕が有る時は開錠し、利用者が出かけたい時に出かけられるよう対応している。また職員間でも身体拘束の実例を挙げ勉強会を開催し、内容を理解した上でケアにあたっている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会を開いたり、職員個々に研修にいらったり、運営会議の中で話しあうことで、虐待についての正しい理解に努めている。 | | |

グループホーム一乗寺ほっこり庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法人内の全体研修で、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について講師を招き、職員は学んでいる。しかし、まだ活用したことはない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に契約書を元に説明し、その際に疑問などについても聞き取り、十分に説明を行っている。また、不明な点があればいつでも返答させて頂くことも伝えている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 地域運営推進会議や面会時にご意見を頂けるように努めている。また、法人内にサービス向上委員会を設置し、その中で苦情等についても話し合い、運営に反映している。 | 運営推進会議に多くの家族の出席を得て、意見をもらい運営に反映させている。また家族の来訪時にも職員側から相談を持ちかけるなどして意見を聞くように努めている。出された意見は職員間で検討し、運営推進会議の中で報告している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ケアに関しては、記録の中に気付いたことやケアへのアイデアを自由に記入できる欄を設けている。その他、運営会議や個人面談の中で意見を聞いている。 | 毎日の申し送りや毎月のミーティングの際に意見を聞き運営に反映させている。また年間の個人目標を立て、半年毎に管理者と面談し評価すると共に、希望や要望を聞いている。職員間のコミュニケーションが良く、1人で悩むことなく何でも相談しながら気持ちよく仕事ができる環境になっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 自己評価表を用いて、各職員が目標を立て、その達成に向けた具体策を挙げさせている。また、個人面談を行い、相談できるようにしている。連勤や残業は極力しなくていいように環境整備をしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者が職員のレベル・ニーズに合わせ、段階的に研修を受けられるように手配。また、自主的に研修を受けられるようにスタッフルーム内に研修案内を掲示している。法人内でも2ヶ月に一度の全体研修や勉強会など職員の学ぶ場を提供している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 毎年「在宅ケアを支える診療所全国ネットワーク大会」に参加し、演題発表を行っている。また、認知症介護実践者研修やリーダー研修にも毎年申し込み、同業者との交流のきっかけ作りをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に自宅で面接を行い、生活歴や要望等を聞いたり、部屋の環境を見させてもらっている。入居に前向きではなかった人に対しては、入居前に何度も会いに行き、関係作りを行った。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族に関してもご本人同様、要望など聞き取りを行い、ケアへ活かしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人、ご家族から事前に聞き取ったことを中心にケアプランを立てている。その他のサービス利用も訪問リハビリなど必要に応じて導入している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 常日頃から全員意識しており、全てのケアはこの考えを元に行っている。また、介護する側、される側ではなく、同じ場所で同じことを共有するすぐ身近にいる存在として関係作りを行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居してからも関係を持ち続けてもらえるように可能な限り面会に来てもらえるよう伝えさせてもらっている。また、全てを職員が行うのではなく、ご家族にも受診や外出、イベントの参加をお願いしている。面会時や電話にて近況報告も行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 親戚や友人の面会があったり、同窓会の参加、思い出の場所に一緒に行ったり、お家に帰って過ごしたりしている。 | 自宅近所の方が訪ねてきたり、家族が面会時にホームのおやつ作りをしている。職員配置に余裕を持たせ、個々の希望に応じて錦市場や神社・仏閣、スケッチに出かけるなどの支援している。また携帯電話を利用したり、家族と文通している利用者もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 開所から二年で馴染みの関係が出来てきている。日中はフロアで過ごす方が多い為、孤立する事無く過ごせている。仲のいい人同士で外出したり、関係を継続出来るような支援もしている。 | | |

グループホーム一乗寺ほっこり庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他事業所に移られた方に、入居者を連れて会いに行ったりしている。また、必要に応じてご家族からの相談にも乗っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃から入居者の思いや希望を聞き取るように努めている。また、その内容を記録に落とし、それにより全員で把握出来るようにしている。意思確認が難しい場合はご家族から情報をもらって検討している。 | 利用者とのコミュニケーションを図る中で、思いの把握に努めている。センター方式を利用して、入居時に家族にも生活歴や好みなどを記入してもらっている。困難な場合は、家族に聞いた表情や行動から把握している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人、ご家族から入居前に聞き取りを行い、フェイスシート等を作成している。また、ご家族にはセンター方式の記入もして頂いている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活記録に気付いたことを記録していくことで状態の把握に努めている。また、日々の申し送りや運営会議の中でも気付いたことや注意が必要なことなどを話し合うようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人からは日々会話する中でニーズを拾いあげている。ご家族からは面会時や地域運営推進会議時に近況報告すると共に意見を頂いている。それをもとにケアプランを作成している。 | 利用者や家族の希望を長期目標としケアプランを立てている。毎月のカンファレンスの際に個々の職員の意見や気づきを話し合い、協力医や訪問看護師の意見をプランに反映させている。ケアプランは6ヶ月ごとに評価し見直され、変化があればその都度見直し変更している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 生活記録にその時その時の様子や発言、職員の気付いたことやアイデアを記録し、申し送りや運営会議を通して情報を共有し実践やケアプランの見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 職員が一日自由に動ける日を作り、普段出来ないような長時間の外出や外食、実家で過ごすなどのご本人の希望に沿った援助をしている。 | | |

グループホーム一乗寺ほっこり庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の祭、地藏盆、バザー、小学校での祭・運動会などイベントには積極的に参加している。また、神社にお参りに行ったり、スーパーへの買い物、喫茶店でのコーヒーなど外出も多い。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 医療連携体制をとっているため、週二回の往診と特変時に連絡することで臨時の往診もしてもらっている。馴染みの病院へ定期的に受診される方もおられる。 | 入居時に利用者や家族に説明し、急変時の対応がスムーズに行えるよう協力医への変更をお願いしているが、専門医は継続して受診してもらっている。協力医の往診が週2回あり、毎週訪問看護師の来訪もある。歯科は必要時に訪問を受け、個別で訪問リハビリに来てもらっている利用者もいる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護事業所から週一回に来庵があり、24時間体制で連絡可能。来られた時に一人一人の状態を伝え、相談している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には、介護サマリーを提出している。入院中は、面会を重ねながら病院関係者とご家族と今後の事を話し合っている。退院後も安心して過ごしてもらえるよう医療面も含め、バックアップ体制をとっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | まず契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明させてもらっている。また、必要に応じて主治医・ご家族・職員でマンテラを行い、現状や今後について話し合っている。 | ホームでは看取りも行う方針で、入居時に説明し、指針や同意書を書面化している。これまで看とりの経験は無く、時期が来れば主治医、家族、職員で話し合い、家族の希望に沿うつもりである。在宅ネットワークに参加したり、法人内の他ホームから情報を得るなどして看取りに対するスキルアップを図っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時対応マニュアルを作成し、職員に周知徹底している。また、二年毎に普通救命講習を行っている。医療的な知識を身につけるための勉強会や研修にも参加している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 最低年に二回の避難訓練を実施している。地域の方には非常時の応援をお願いできるように地域運営推進会議にて協力を要請している。また、地域の消防署と連携しての訓練も行っている。 | 年に2回以上昼夜を想定して避難訓練を行っており、1度は消防署の指導を受け開催している。近隣の参加は得られていないが、運営推進会議で参加者に協力を呼びかけている。また地域の防災訓練には職員が参加している。 | 消防署立ち会いの避難訓練の際に運営推進会議を開催するなど、地域の方に立会ってもらい、地域との協力体制を築かれるきっかけとされてはいいかなのでしょうか。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人一人にあった言葉かけ、対応をするよう努めている。間違った言葉かけや対応があったときは注意し合えるようにしている。 | 尊厳やプライバシーに配慮しながら、個々の場面に応じた言葉かけを心がけている。不用意な言葉かけを見かけた時は、その場で気付いた職員が注意している。トイレ誘導や入浴介助の際の声かけには注意を払っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々ゆっくりと話をしながら思いや希望を聞き出すようにしている。自己決定についても、小さなことから自分で決められることについては決めてもらっている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事や就寝・起床時間など、職員の都合は置いておき、一人一人のペースを大事にするよう努めている。また、急な外出などやりたいことがあれば対応するようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その日の服の選択や髪の設定、お化粧品など出来る限りのことをご本人に行ってもらっている。また、定期的に職員がマニキュアを塗ったり、産毛を剃ったりしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者のレベルに合わせて買い物、食事作り、お茶づけ、台拭き、洗い物などのお手伝いをしてもらっている。 | 献立はその日に利用者の希望を聞き決めている。冷蔵庫の中身を確認し、毎日利用者と共に買い物に出かけている。下ごしらえや調理、片付けまで一緒に行っており、旬の物を多く取り入れるよう心がけている。食事の時間は職員と共に会話を楽しみながらテーブルを囲んでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量は毎食後チェックしている。水分量についても摂取量が少ない人は記録に落とし、好きな飲み物を飲んでもらったり、ゼリーを出したりと工夫している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時と就寝時に行っている。声かけと介助も交え、少しでもご本人の力を活かせるようにしている。必要な方は舌のケアも行っている。 | | |

グループホーム一乗寺ほっこり庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄記録を利用し、排泄リズムを掴むように心がけている。リハビリパンツやオムツも極力使わずに、履き心地のいい下着で過ごせるように支援している。 | 個人記録に排泄パターンを記録し、リズムに応じてトイレ誘導を行っている。日中は全員が布パンツで過ごしており、夜間は睡眠を妨げないようパットやリハビリパンツを使用している利用者もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分補給や食事内容にも気を使っている。また、朝にヨーグルトを食べてもらったり、散歩やお手伝いなどで体を動かしてもらえるようにしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴時間は昼前から夕方。お一人で入浴可能な方に関しては夜に入ることもある。入浴拒否がある方も無理に入ってもらおうようなことはせず、楽しんで入浴してもらえるような声かけに努めている。 | 利用者の希望に沿って、毎日入浴される方や好きな時間帯に入れるよう支援している。入浴拒否が見られる場合には、コミュニケーションを図る中で利用者の状態を見極めて声かけし、3日に一度は入れるよう支援している。ゆず湯など季節に応じた支援も行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間は決まっていない。これまでの生活歴をベースに入眠の声かけ・誘導を行っている。また、眠れないときは無理に寝てもらおうようなことはせずに、不眠の原因を探りつつ、眠くなるまでフロアで一緒に過ごすなどの対応をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬リストをファイリングし、把握に努めている。また、薬剤師や主治医からも薬の説明を受け、全員での把握につなげている。症状の変化があったときは主治医に報告している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 役割作りは継続して行っている。また、ビールが好きな方に晩酌をしてもらったり、ドライブ、買い物、歌など楽しみごとへの援助も行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ほぼ毎日何らかの外出はしている。また、日頃行けないような場所でもイベントを企画したり、職員が一人自由に動ける日を作り、ご家族の協力を得ながら、ゆっくり一日かけて出掛けたりしている。 | 食材や嗜好品の買い物、散歩は日課となっている。個別の希望で喫茶店や神社の参拝、外食等に出かけている。また行事として紅葉見物やホテルでの食事、花見等に出かける支援をしている。職員は配置に余裕を持たせ、行きたい時に行ける支援を心がけている。 | |

グループホーム一乗寺ほっこり庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望がある方には持って頂き、管理が困難な方は預かり金として施設側で管理している。また、買い物に行く際は、その預かり金で支払ってもらっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話を利用されている方もいる。その他の方で、電話の希望がある時は施設の電話を使ってもらっている。手紙のやり取りもご家族とされている方もいる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 温かみを感じられるように配慮している。飾りに関しては、時期ごとに入居者と一緒に作成し、季節感が感じられるようにしている。 | 木を基調に落ち着いた雰囲気のリビングは、障子を用い直射日光を防いでいる。広く出入りがしやすい対面キッチンでは利用者と職員と一緒に作業し、料理が作られている。一枚板の食卓テーブルやソファで利用者は思い思いに寛いでいる。四季が感じられるよう利用者の作品を飾り工夫している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブルやソファの配置で、みんなで過ごせたり、一人でゆっくり過ごせるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に馴染みの家具や使いなれた物を持ってきて頂き、家と同じようにすることで居心地よく過ごしてもらえるようにしている。 | クローゼットと洗面台が用意された居室に、自宅よりベッドやタンス、テレビ、ソファ、仏壇等を持参し、配置も工夫して居心地良く過ごされている。床に絨毯を敷いてクッション代わりにしたり、携帯電話を使用している利用者もいる。居室前には表札を掛け利用者の作品を飾るスペースもある。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりをつけたり、伝い歩きがしやすいように家具等の配置をしている。また、居室前にそれぞれ表札をつけ、自室の場所がわかるようにしている。 | | |